

Chateau Ducru Beaucaillou 1981

シャトー・デュクリュ・ボーカイユ



所有者 Famille Borie

オペレーション サンジュリアン

1855年格付け グラン・クリュ 2級

シャトー・デュクリュ・ボーカイユは、ボルドーのジロンド河の左岸、サンジュリアン村にあるメドック地区グラン・クリュの格付け2級のシャトーです。ボーカイユとは、【美しい小石】という意で、ブドウ畑を取り囲む土壌は、主に大きな小石を含む砂利質土壌です。ジロンド河を見渡す素晴らしい立地に大変美しいビクトリア調のシャトーを所有し、今日ではスーパーセカンドのシャトーとして世界的に知られているシャトーです。

歴史は古く17世紀の頃、現在のデュクリュ・ボーカイユの土地はベイシュベルの地所の一部でした。18世紀になるとベルジェロン氏(Bergeron)が所有し、その頃はシャトー・モーカイユ(Maucaillou)として呼ばれていました。しかし、フランス語で Mauvaise(悪い)&Caillou(小石)という意がシャトーのイメージを損なうという理由から【Beaucaillou】と改名します。1795年、ベルジェロン氏の死によりベルトランド・デュクリュ氏(Bertrand Ducru)が所有、そして彼の名に因んで現在のシャトー・デュクリュ・ボーカイユが誕生しました。それは、彼の息子(Gustave)とその妹(Marie Louise)へ相続され Gustave によってシャトーは大々的に改革が行われました。その結果、1855年のメドック地区格付けの際、見事2級の格付けを獲得したのです。(1857年、Gustave はシャトー・ブラネール・デュクリュも購入しています。)その後、ジョンストン家(Jonston)が所有しましたが、1941年より現在のボリー家(Borie)が所有しています。当時、Francis Borie が購入、そして息子の Jean Eugène Borie へ引き継がれ、彼は32haのブドウ畑を買い足しました。(ラグランジュの畑より) 1998年の彼の死によって、その息子である François Xavier Borie が所有、2003年には彼の弟へと分譲され、現在は Bruno Borie がシャトーを運営／管理しています。

シャトー名にもなっている特徴的な小石【Caillou】の存在は、ブドウ栽培において多くの利点をもたらします。雨が降れば排水を促し、また寒い時期には日中の熱を保ちその熱をさらに気温の下がる夜になるとブドウの樹へ反射してくれます。それによりブドウの樹は寒波や霜害から守られるのです。また近くには河が流れ、マイクロクライメットをもたらします。潮の満潮によって一日4回に及ぶ河川の動きがブドウ畑上の空気を循環し、寒い冬には寒波を和らげ、暑い夏には涼しくする効果があります。これら的大変素晴らしいテロワールがあるからこそ、今日スーパーセカンドとして1級ワインに引けをとらないほどの上質ワインを常に生産しています。

デュクリュ・ボーカイユ 1981 は、カベルネ・ソーヴィニオン主体、メルローから成ります。ダークチェリーの焼き菓子(タルトなど)やラズベリーのコンフィチュールなどを思わせる官能的な甘みを伴うアロマ。そしてほのかに感じるカラメルやカフェなどのニュアンスが絶妙に重なり合い、深みとなって魅了してくれます。きれいなボディを保ちながら複雑さ、また優雅さも備え持ち 熟成したしっとりとした優しい口当たりが特徴的。長い余韻へと繋がります。ボルドーを代表できる素晴らしいワインであると考えます。

参考情報

土壌 主に砂利質(小石)、下層土:粘土質
栽培面積 215ha (全体で) うち、75ha が Ducru Beaucaillou
栽培比率 70% カベルネ・ソーヴィニオン、30% メルロー
平均樹齢 38年
栽培密度 10,000本/ha
収量 49hl/ha
醱酵・マセラシオン 約3週間
熟成 18ヶ月 (新樽 50~80%)
年間生産量 平均 220,000本

s.a.r.l.Trente-Trois

39, rue Huguerie, 33000 Bordeaux, FRANCE Email:33@trente-trois.fr, Tel :+33(0)953459303